

「文化祭」での絵の見方・感じ方

ここがいいなあ。ここが好きだよ。今までで一番の作品！

まだ私が担任だった頃、時間をかけて絵を描かせていたことを思い出します。当時まだあった土曜日などには、弁当を持ってきてもらい、夕方まで描かせたこともありました。子どもがもっと描きたいと言って、文化祭前日まで作品が仕上がらないこともありましたが、でも、本気になって描き上げた作品には、その子の達成感と作品への自負がありました。

仲間で描いているとお互いの絵を見合います。すると「この色いいね」「この構図、好き」「ここ、細かく描けてる」…、そういった言葉が出てきます。直接その言葉を聞いていなかった子に、「〇〇さんが〜と言ってたよ」と告げると、「ふーん」とまんざらでもない様子。「どうやって塗ったの?」とか「ここ、〜するといいよ」と、学級の仲間で聞き合ったり指導し合ったり…。そんな環境の中で作品を描いていると個々の作品の質もどんどん高まっていきました。

子どもたちには、絵をみる力も伸ばしてほしいと思っています。美しいもの、いいものに対して素直に感動する心を育てたいものです。文化祭では鑑賞の時間があります。他のクラスや他の学年の作品に出会ったら、『この形いいなあ』、『この色、素敵だ』、『この場面（構図）、どうやって描いたのだろう』『あっ、この人物の表情、好きだ』…とつぶやいてほしいです。作品の良さ、美しさ、巧みさを心で受け止め、言葉にする。私はそういった力（感性）を伸ばして（身に付けて）ほしいのと思っています。美しいと感じる心、作品の良さやお気に入りを探る作業は、人間が生きていく上ではとても大事なことだと思います。今回は「友達の作品」ですが、この力はいろいろな所でも生かされます。市内・外で行われる作品展や美術展（場合によっては音楽や歌等）においても、好きな作品や良さを見つけ、声に出してつぶやいたり作品と対話したりしてみるといいと思います

文化祭当日は、絵の鑑賞、バザー、じゃんけん大会などがある予定です。バザーの準備・運営にご協力をいただいた地域・PTAの皆様、本当にありがとうございました。



新潟県いじめ問題対策連絡協議会としての共通メッセージ

- いじめは、いじめを受けた児童生徒の心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は心身に重大な危険を生じさせるおそれがある。
- いじめの問題は、児童生徒だけの問題ではなく、心豊かで安全・安心な社会をいかにしてつくるかという、県民みんなで考えていくべき課題である。
- 新潟県いじめ問題対策連絡協議会では、いじめに悩む児童生徒を救うため、学校、家庭、地域、その他関係機関が強いネットワークをつくり上げる。
- 「いじめをしない！決して見逃さない！決して許さない！」「見て見ぬふりはしない！みんなで声を掛け合う！」を合い言葉にして、いじめ防止に全力で取り組む。
- 令和2年度も引き続き「ネットいじめ防止」を取り上げ、「SNS等の危険性に関する保護者・地域への意識啓発」と「家庭での望ましいネット利用のあり方」に焦点を当てた取組を展開し、いじめの未然防止に努める。
- さらに、今年度は新型コロナウイルスに関する差別や偏見が広がらないように尽力する。

これは、「新潟県小学校長会長」名で届けられた文書です。各学校長が、全校集会で児童に伝えたり、職員会議や校内研修で職員に指導したりするための文書です。これらのメッセージを生かし、校内の取組につなげていきたいと考えています。

特に、5つめにある「SNSを使ったいじめを防ぐ」ために、石川小でもメッセージ（お願い）を、地域・家庭に発信していこうと考えています。

2つめに書かれてあるように、いじめの問題は、県民みんなで考えていく課題だと思います。子どもに指導する私たち大人がまずは襟を正さなければなりません。学校のみならず、家庭・家族、地域や社会（勤め先等）でも話題にしなが、いじめ根絶を目指す社会をつくり上げていきましょう。ご協力をお願いします。